



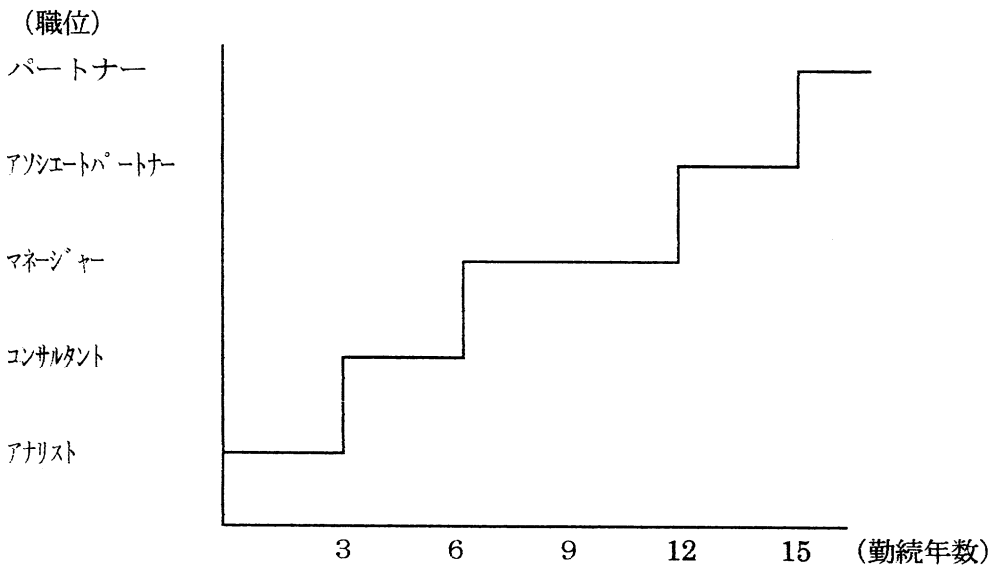
慶應義塾大学ビジネス・スクール

ABCコンサルティング株式会社 (A)

我々がコンサルティング会社という存在を広く知るようになったのは、マッキンゼー&カンパニー元支社長であった大前研一氏が活躍するようになった80年代後半からである。そのコンサルティング業界は、現在、世間の不況をよそに繁忙を極めており、就職活動においても相当な人気職種となっている。

ABCコンサルティングは、東京・青山に本社をおく、米国会計事務所系の経営及び情報に関するコンサルティング会社である。グローバルベースで8年連続20~30%の増収、増益を達成しており、日本における従業員数は1500人、10年前の400人を考えると、急激な拡大を続けているのがわかる。各人は4つのインダストリー別のグループの何れかに所属し、同時に得意なスキル分野のグループにも所属することになっている。特徴としては、受注した仕事毎に顧客と混成チームを形成するプロジェクト型の組織運営を行なっていることである。評価制度は職務中心主義のシステムが徹底しており、「昇進するか、退職するか」といった風土が根づいている。顕著化している問題点としては、8%の離職率である。会社側はパフォーマンスの悪い人間は退職してもらっても構わないが、良い人間には留まってもらいたいと考えている。

ケースライターはコンサルタントの真の姿に触れるべくインタビューを行なった。どのように仕事をしてきたかを中心に、仕事やキャリアについての考え方を自由に語ってもらっている。コンサルタントというと「何となくカッコいい」、「スマート」といったイメージが先行しているが、実際はどのようなものか。



ABCコンサルティング社のキャリアステージ